

教育の方法・技術

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

久世 均(岐阜女子大学)

第8講「ハイブリッド型授業の方法と技術」

【目的】

未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育むための「新たな学び」やそれを実現していくための「学びの場」を形成するためにICTを効果的に活用することが重要である。

さらに、ICTを活用することで、チームとしての学校の経営力を高め、教育の質の向上と教員が子供と向き合う時間的・精神的余裕を確保することにつながる。そこで、ここでは遠隔授業の教育利用・研究での課題について考える。

【学修到達目標】

- ハイブリッド型授業について具体的に説明できる
 - ハイブリッド型授業について授業設計ができる
-

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

(1)遠隔講座と大学設置基準変遷の経緯

(a) 「遠隔授業」の大学設置基準における取扱い等について（答申）

情報通信技術の進展と高等教育の将来像を視野に入れつつ、当面予想される形態であるマルチメディアを活用して隔地間で行われるテレビ会議式の遠隔授業の制度上の取扱い、特に設置基準上の位置付けについて提言。

- テレビ会議システムを利用した「遠隔授業」を大学設置基準上に明確に規定
- 「遠隔授業」により修得できる単位数⇒124単位のうち30単位まで
- 社会人を対象とするリフレッシュ教育における「遠隔授業」の活用
- 通信教育におけるマルチメディアの利用についても、設置基準上の規定を明確化

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

(1)遠隔講座と大学設置基準変遷の経緯

(b)グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について（答申）

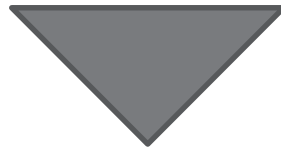
高等教育制度及び教育研究水準の両面にわたって国際的な通用性・共通性の向上と国際競争力の強化を目指した改革を進めるため五つの視点に立って具体的改革方策を提言。

- グローバル化時代を担う人材の質の向上に向けた教育の充実
- 科学技術の革新と社会，経済の変化に対応した高度で多様な教育研究の展開
- 情報通信技術の活用
- 学生，教員等の国際的流動性の向上
- 最先端の教育研究の推進に向けた高等教育機関の組織運営体制の改善と財政基盤の確保

第8講「ハイブリッド型授業の方法と技術」

(2)本学の公開講座について

昭和63年の教育職員免許法（以下「免許法」という。）の改正において、教育職員で、その有する免許状が二種免許状であるものに、一種免許状取得の努力義務が課せられた。（免許法第9条の2）



一種免許状の取得については、大学の遠隔通信教育を利用するなど、本人の自発的な努力によることが前提であるが、本学ではこれを支援するため、免許法第6条関係別表第3を適用し、在職年数に応じて必要単位が修得できるよう当認定講習を開設し、単位修得の機会を提供している。

12年の経験年数+10単位 → 2種免許から1種免許への上進が可能

第8講「ハイブリッド型授業の方法と技術」

(3) 遠隔教育システムの効果

- 遠隔教育システムを想定すれば、一般の公開講座のように場所や時間に制限されることなく、近くで受講できるという利便性を考えると、公開講座における遠隔教育システムは充分利用できるものであり、
- 現在では、Zoom等のアプリを活用することにより公開講座が在宅学習へと学習形態が移行してきた。

第8講「ハイブリッド型授業の方法と技術」

(4)カリキュラムの特色

- 本学の公開講座のカリキュラムは、教育モデルプログラムを岐阜会場と沖縄会場を遠隔教育システムにより同時に展開している。
- 受講者が、全て現職教員であるため、それぞれの教員の持つ「経験知」が豊富にあり、他地域の現職教員の課題や意見が参考になったという意見が多かった。
- また、遠隔で受講しているにもかかわらず、（又は遠隔で受講しているために）積極的に受講できたとの意見が多かった。

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

2. e-Learningと遠隔授業を組み合わせた授業構成

(1) e-Learning (eラーニング)

- eラーニングとは、簡単にいえば、コンピュータとインターネットを利用した、双方向的なコミュニケーションが可能な学習方法である。
 - 「オンデマンド学習」と称されたり、最近では「オンライン学習」とも呼ばれたりする場合もある。
-

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

2. e-Learningと遠隔授業を組み合わせた授業構成

(2) ハイブリッド型授業のパターン

- **ハイフレックス型授業**

ハイフレックス (HyFlex : Hybrid-Flexible) 型の授業では、学生が同じ内容の授業を、オンラインでも対面でも受講できる。

- **ブレンド型授業**

ブレンド (Blended) 型の授業では、授業の目的にあわせて対面とオンラインを組み合わせて授業を実施する。

- **分散型授業**

受講生を学籍番号の奇数・偶数などで分け、半分の学生は対面授業を受講、残りの学生はオンライン授業を受講させ、次の回ではそれを入れ替えるといった方法

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

2. e-Learningと遠隔授業を組み合わせた授業構成

(3) ハイブリッド型授業のデザイン

- **I型**

対面授業とe-Learningを交代に組み合わせて、e-Learningの映像により理論的な学びをし、対面授業によりグループ討議やワークショップを行う。e-Learningにより授業内容に課題や疑問点を持ち対面授業に向かうことで、個別最適化した学びの実現と問題解決能力を身に着けることができる。

- **II型**

対面授業とe-Learningを組み合わせて、最初の対面授業にて授業の目標を明確化し、学習の方法を示したのちにe-Learningによるオンライン授業（オンデマンド学習）に取り組む。E-Learningでは、わからなかった内容を繰り返し閲覧し確認することが、自分の理解度やペースに合わせて繰り返し視聴できるため、予習時の理解も高めることができる。また、復習にも活用することができるため、知識を定着させる効率を高めることができる。

- **III型**

e-Learningのみでの学修は、いつでも、どこからでも学修ができ、教えないで学べる完成型として位置付ける。社会には多くのオンラインでの学修機会がある。今後、広く深く学びを継続し、学び続ける教師としてハイブリッド型授業III型は、発展性がある学習方法になる。

① ハイブリット型授業のデザインと教えないで学べる学修環境の整備

ハイブリット型授業とは、対面授業とオンライン授業とを組み合わせた授業システムのこと。

1

ハイブリット型授業Ⅰ型

対面授業

e-Learning

対面授業

e-Learning

e-Learning

対面授業

繰り返し

反転授業

反転授業（はんでんじやぎょう、英語: flip teaching (or flipped classroom)）は、ハイブリット型学習の形態のひとつで、学生たちは新たな学習内容を、通常は自宅でオンライン授業を視聴して予習し、教室では講義は行わず、逆に従来であれば宿題とされていた課題について、教師が個々の学生に合わせた指導を与えたり、学生が他の学生と協働しながら取り組む形態の授業。

■ 対面授業とe-Learningを交代に組み合わせて、e-Learningの映像により理論的な学びをし、対面授業によりグループ討議やワークショップを行う。e-Learningにより授業内容に課題や疑問点を持ち対面授業に向かうことで、個別最適化した学びの実現と問題解決能力を身に付けることができる。

2

ハイブリット型授業Ⅱ型

対面授業

e-Learning

対面授業

■ 対面授業とe-Learningを組み合わせて、最初の対面授業にて授業の目標を明確化し、学習の方法を示したのちにe-Learningによるオンライン授業（オンデマンド学習）に取り組む。E-Learningでは、わからなかった内容を繰り返し閲覧し確認することが、自分の理解度やペースに合わせて繰り返し視聴できるため、予習時の理解も高めることができる。また、復習にも活用することができるため、知識を定着させる効率を高めることができる。

3

ハイブリット型授業Ⅲ型

e-Learning

■ e-Learningのみでの学修は、いつでも、どこからでも学修ができ、教えないで学べる完成型として位置付ける。社会には多くのオンラインでの学修機会がある。今後、広く深く学びを継続し、学び続ける教師としてハイブリット型授業Ⅲ型は、発展性がある学習方法になる。

4

教育リソース

テキスト

デジタルアーカイブ

質疑・応答

インストラクショナルデザインによるテキスト作成

講演・実践の映像、資料のデジタルアーカイブ

Zoomやグループエアを活用した質問対応

■ 授業の設計に関して「何をどのように教えるか」がカリキュラムである。それに対して、カリキュラムを構築するための方法論が「インストラクショナルデザイン」である。インストラクショナルデザインは、カリキュラムを効率的に教えるために、学習者の特徴や与えられた環境、リソースなどを考慮し、最も効果的で魅力的な教育方法を選択することであり、実行と評価を繰り返すことで、研修の成果を高めることができる。

■ ハイブリット型授業のためには、テキスト、教材・素材のデジタルアーカイブ、質問・応答の体制が重要である。各教科の学修目標の見直しと学修を深化するための仕掛け、個別に対応した教材・素材のデジタルアーカイブ等学習支援デジタルアーカイブが重要である。また、「自から知識を構成する」学習観である構成主義の学びと創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング)教育の実現においても、教材のデジタルアーカイブの充実が必要となる。

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

3. 遠隔教育の必要性

- 将来の“afterコロナ”時代においては、日常の学びと非日常の学びの両面において遠隔教育を活用することが期待される。“afterコロナ”における遠隔教育の位置づけは「いつでも、どこでも、誰とでも」と言える。
- コロナ禍が教育のデジタルトランスフォーメーション（DX）を加速する中、本学は、ニューノーマル時代に求められる学びの在り方に対応するため、
- 高等学校卒業生から社会人まで幅広い学習者を対象として、本学におけるこれまでの「遠隔教育の実績」と「膨大な教育リソース（デジタルアーカイブ）」を最大限に活用し、
- e-Learningを授業主体として展開する新しい遠隔教育を推進する。

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

4. 遠隔協働学習のすすめ

- 遠隔協働学習 (Computer Network Supported Cooperative Learning)は、「コンピュータ通信などを利用して、学校間あるいは学級間で情報交換をしながら、共同で学習活動を進めていく形態」と定義されている。(永野,2000)
- 遠隔協働学習をする目的には、他地域の生活を知る、生活、気候などの比較、表現能力の育成、コミュニケーション体験、自分たちの知識のわかりなおし、
- 「あたりまえ」感への揺さぶり、学習の文脈・必然性の設定、学校外の人材の活用、社会のイベントやプロジェクトへの参加体験を挙げられる。

課題

1. 遠隔教育の変遷について説明しなさい。
2. ハイブリット型授業の3つのパターンについて、具体例を挙げて説明しなさい。
3. ハイブリット型授業を具体的に企画しなさい。
4. ハイブリット型授業の課題について具体例を挙げて説明しなさい。
5. 遠隔教育の必要性について具体例を挙げて説明しなさい。
6. 遠隔協働学習を企画し、実際にやってみなさい。

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

【目的】

未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育むためのこれら3つの「新たな学び」やそれを実現していくための「学びの場」を形成するためにICTを効果的に活用することが重要である。さらに、ICTを活用することで、チームとしての学校の経営力を高め、教育の質の向上と教員が子供と向き合う時間的・精神的余裕を確保することにつながる。そこで、ここでは遠隔授業の教育利用・研究での課題について考える。

【学修到達目標】

- ハイブリッド型授業について具体的に説明できる。
- ハイブリッド型授業について授業設計ができる。

教育の方法・技術

第8講 「ハイブリッド型授業の方法と技術」

久世 均(岐阜女子大学)